

神奈川県老人保健施設協会 リハビリテーション部会
平成23年度 第1回新入職者研修会

基礎から理解する 認知症のリハビリテーション

2011年7月3日(日)
介護老人保健施設ひもろぎの園
石井 利幸

本講義のねらい

老健利用者の多くは認知症を有している。
しかし、認知症患者への関わりは困難なことが
多く、リハのアプローチも確立されていない。

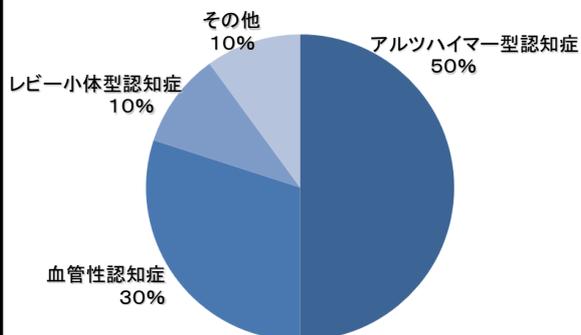
本講義では、主に以下の2点を考えていく。

- ① 本人の主観的世界の推察を通して認知症の症状を考えていく方法
- ② 認知機能と日常生活の関連の理解と、特別な課題を用いずに認知機能を具体的に評価する方法とアプローチ

本講義の内容

1. 進行に合わせた中核症状の評価
(1) 認知症の進行
(2) 記憶障害と見当識障害
(3) 認知症の方の主観的世界の推察
2. BPSDの理解と介入のポイント
3. 日常生活での支障
4. 環境が認知症の方に与える影響
5. 認知症のリハビリテーション
(1) 認知症リハの落とし穴
(2) 認知症リハの考え方

認知症の種類



長谷川和夫: 認知症の知りたいことガイドブック. 中央法規. 2006. p.33を一部改編

アルツハイマー型認知症の診断基準 (DSM-IVより)

- (1) 記憶障害があること
- (2) 失語、失行、失認、実行機能障害のうち一つ以上があること
- (3) (1)と(2)により日常生活に支障をきたす
- (4) 意識が清明であること
- (5) (1)と(2)の原因と思われる脳器質性変化がある

高齢者痴呆介護研究・研修センター テキスト編集委員会編著: 高齢者痴呆介護実践講座 I
研修用テキスト 一基礎課程一, 第一法規. 2003. pp.107-108

最近のトピック

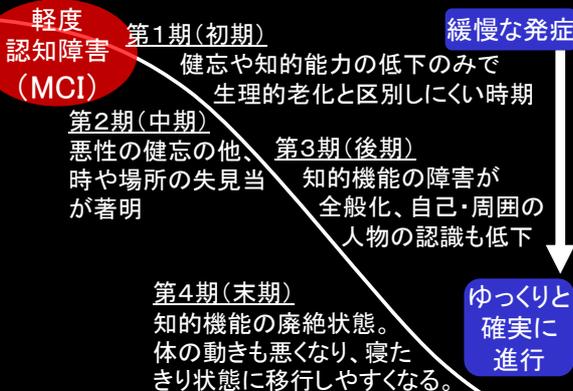
アルツハイマー型認知症の
新しい治療薬について

発売予定の薬

- ガランタミン (galantamine)
- メマンチン (memantine)
- リバステグミン (rivastigmine)

進行に合わせた 中核症状の評価

アルツハイマー型認知症の進行①



軽度認知障害 (MCI) とは

- ① 本人や家族から認知機能低下の訴えがある
- ② 認知機能は正常とは言えないが認知症の診断基準も満たさない
- ③ 複雑な日常生活動作に最低限の障害はあっても、基本的な日常生活機能は正常

朝田隆, 木田次朗: MCIの原因となる疾患の診断と対応. 老年精神医学雑誌, 第20巻増刊号-1:41-46, 2009

将来認知症へと重症化する可能性のある前駆段階と考えられる

MCIについて



朝田隆, 木田次朗: MCIの原因となる疾患の診断と対応. 老年精神医学雑誌, 第20巻増刊号-1:41-46, 2009

MCIと関連が推察される疾患

		変性疾患	血管障害	精神疾患
amnesic MCI	single domain	AD		うつ病
	multiple domain	AD	VaD	うつ病
non-amnesic MCI	single domain	FTD		
	multiple domain	DLB	VaD	

AD: アルツハイマー病, FTD: 前頭側頭型認知症, DLB: レビー小体型認知症, VaD: 脳血管性認知症

朝田隆, 木田次朗: MCIの原因となる疾患の診断と対応. 老年精神医学雑誌, 第20巻増刊号-1:41-46, 2009より一部抜粋

認知症の記憶障害の進行

(1) 前向健忘

認知症を発症すると、新しいエピソード記憶や意味記憶が形成されなくなる

過去

現在

(2) 逆向健忘

認知症になる前に覚えたエピソード記憶・意味記憶はしっかり残っているはず。しかし進行と共に新しいところから消えていく。

発症

現在

子供時代 青年時代 中年時代

見当識の障害とその変化

失見当:そこにいる人がわからない、場がわからない、動きや雰囲気の意味(状況)がわからない、自分との関係がわからない、知っている(頼りの)拠り所がないなどの未知の世界観といえる

誤見当:この状況に圧倒されず、活力があり積極的な老人は、不安をもちながらあがいてゆくと、自分なりの間違った把握、認識、意味づけ(感じて、思っ、そう信じて)などで、知っているものとして安心・安定してゆく

室伏君士: 痴呆老人への対応と介護, 金剛出版, 1998, pp.54-55

無関心:この段階では逆向健忘重度で周囲への関心も低下し、もはや誤認すらできず、ぼんやりとした認識

特に施設の利用開始からしばらくは混乱が大きい、自然と安定していくことが多い。

アルツハイマー型認知症の進行②

FAST

(Functional Assessment staging of Alzheimer's disease)

アルツハイマー型認知症の病状ステージを、生活機能の面から分類した観察式の評価法。「認知機能の障害なし」から「非常に軽度」「軽度」「中等度」「やや高度」「非常に高度」の7段階に分類している。

認知症へのアプローチを考える前提

- 認知症は進行性の疾患であり、症状は確実に進行する
- 「治す」ことより「遅らせる」ことを中心に考える
- 生活上の支障は、環境との相互作用の中で出現する機会が多い
→ 本人へのアプローチ + 環境調整

BPSDの理解と介入のポイント

BPSD(認知症の行動心理症状)

Behavioral and Psychological Symptom of Dementia

●陽性症状

せん妄、幻覚・妄想、不安・焦燥、徘徊・多動、異食・過食、夜間の不眠など

●陰性症状

意欲低下、自発性低下、抑うつ、依存、日中の傾眠など

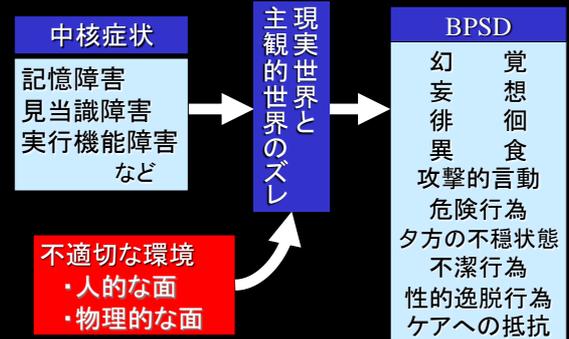
BPSDの出現頻度

(Matsumoto et al. 2007)

- 67名の地域在住認知症患者(平均80.8歳、平均MMSE20.1点)に、NPIを用いて調査。
- 93%が何らかのBPSDを有していた。

無為	70%	うつ	21%
興奮	39%	脱抑制	18%
易刺激性	34%	不安	15%
妄想	31%	幻覚	10%
異常運動	24%	多幸	3%

中核症状・心理状態・環境・BPSDの関係



高齢者痴呆介護研究・研修センター テキスト編集委員会編著:高齢者痴呆介護実践講座II
研修用テキスト 一専門課程一、第一法規,2002,p.131を参考に作成

BPSDを課題として取り上げる際の注意

BPSDがあると、家族もスタッフも、認知症の方の介護に困ってしまう

- 課題と目標を、介助者の視点だけから考えてしまいがちではないか

本人の視点に立つと、全く違う課題になる

例 入浴場面での抵抗・興奮

- 介護者:入浴してもらえないので困る
暴言・暴力があつて大変
- 本人:無理に嫌なことをされて怖い

本人を中心に考えないと、誰のための支援か見誤ってしまう

日常生活での支障

初期に気付かれる生活上のつまづき

今まで失敗なくできていたことが、少しずつおかしくなってくる。例えば・・・

- 買い物:冷蔵庫にあるのに、同じ物を買ってきてしまう。小銭がたまってしまう。
- 料理:味付けがちよつと変。変な具が入っている。まあ食べられるが・・・
- 更衣:服の組み合わせがちよつと変

日常生活で色々なことを円滑に進めていくためには、種々の認知機能を活用しなければならない。特に実行機能が重要である。

実行機能障害とは

複数の行動を取捨選択し適切な順序で展開する能力。実行機能障害のある患者は、一つの行動を指示されて一つ実行する、という場面では問題を生じないが、複数の行動の順序や手順を考えなければならない状況で段取りよくふるまうことができず、行動がしばしば衝動的、断片的なものになる。

認知症が進行してくると・・・

- お茶入れ：
茶葉を湯飲みに入れてしまう。急須の蓋を湯飲みやポットに乗せてしまう。
- 洗濯：
ゆすがないまま干してしまう。生乾きののにたんでしまう。

このようなことが多くなると、家族もスタッフも本人はできないと思って、その作業を取り上げてしまうことが多いのではないか。

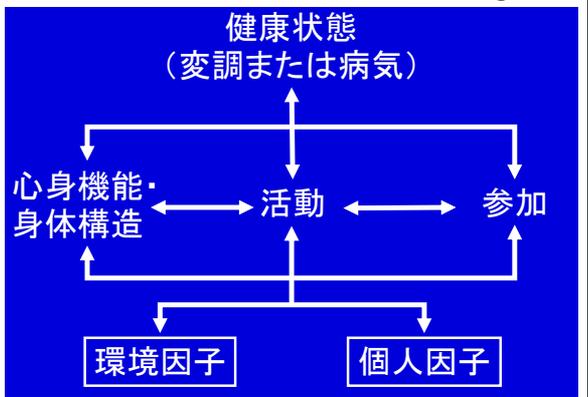
認知症高齢者へのアプローチの偏り

- 在宅生活を続けるうえで、BPSD（特に陽性症状）の有無が鍵となることが多い
 - 家族が疲弊する原因も、BPSDによるところが大きいのではないだろうか
- ➡ BPSDをなくすことに目が向き、良い部分を引き出すアプローチが乏しい・・・？

リハから残存能力を活かす提案をする必要がある。しかし老健で発揮できる残存能力とは何か？そもそも施設環境は・・・？

環境が認知症の方に与える影響

ICFにおける環境因子の位置づけ①



ICFにおける環境因子の位置づけ②

環境因子

物的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境の特徴がもつ促進的あるいは阻害的な影響力

環境が促進的又は阻害的に影響する例① ～自宅の環境の場合～

- ①住み慣れた家・馴染みの人間関係がある
 - ①促 ➡ 見当識障害は最小限、心理安定
 - ②阻 ➡ 対人交流が少ない、家族が障害を受け入れられないと負担が大きい
- ②いろいろな生活用品に囲まれている
 - ①促 ➡ 自分で行うアクティビティが多い
 - ②阻 ➡ 実行機能障害が目立ってしまう

環境が促進的又は阻害的に影響する例② ～施設の場合～

- ①知らない場所・知らない人が大勢
 - ①促 → 社交性の発揮、対人交流増加
 - ②阻 → 見当識障害により、心理状態不安定
- ②最小限の生活用品、使い慣れない設備
 - ①促 → 実行機能障害は目立たない
 - ②阻 → ・自分で行う作業は少ない
・設備をうまく使えずBPSDに発展すること(例:家は和式便器で施設は洋式→便器で洗い物)

環境に働きかける重要性と基本的視点

同じ人でも、環境が違えばBPSDの質や頻度、発揮できる能力や機会の数は全く違って来る。環境を調整するに当たっては、自宅でも施設でも、以下の2点が大切ではないか。

- ①本人のBPSDを助長したり、能力を発揮できないようにしている阻害要因を除去する
- ②本人の心理的安定をもたらしたり、能力を引き出しやすくする促進要因をできるだけ多くしていく

認知症のリハビリテーション

認知症リハビリテーションの落とし穴

- 認知訓練とは、個々の患者に人工的な能力を授けること、すなわちある特定の心理測定的な尺度における得点の変化を意図しているのではない。
- 認知リハビリテーションの治療士の多くは、・・・積み木模様を完成させたり単語リストを覚えたりするような人工的な認知課題を用いて患者を訓練することのメリットはほとんどないと認識するようになってきた。

Rodger Ll. Wood, Ian Fussey著、清水一 他訳：
認知障害のリハビリテーション、医歯薬出版、1998、p.3

認知症のリハビリテーションの考え方

- 認知機能だけに焦点を当てない
- どの認知機能の低下が、生活面のどの問題と関係しているのかを分析する
- 認知機能を向上させることが問題解決にどう有効なのか、可能かどうかの見極めが重要
- スタッフ・家族の関わり方等を含めた環境の見直しと、効果的な関わり方の考案
- 生活上の支障をどう改善するかを中心に

当施設における認知症作業療法①

認知症では、環境との相互作用の中で、ADLの問題やBPSD等の症状が出現する

- 対象者ではなく、自分たちが変わる必要がある。スタッフを含めた人的環境と、物的環境の両方の見直しが最も重要
- 対象者の主観的世界を推察し、それを神経心理学的評価に基づいて解釈する

勝手に物語を作るのではなく、主観的世界を客観的に推察することが重要

当施設における認知症作業療法②

「テスト」らしい課題は、現実と違う主観の世界を持つ対象者には拒否されやすい

- 特別な課題でなく生活場面で行う作業を用いる
 - * 歯磨き・お茶入れ: 手続記憶、実行機能
 - * 会話: 近時・遠隔記憶、ワーキングメモリ
- 実際の作業場面で残存能力を評価し、最小限の介入で遂行できる方法を明らかにする
- 「晴と曇(け)」で作業を捉え、特に後者を重視

普通の暮らしの中に認知機能発揮の場面をちりばめるように工夫。作業分析が重要!!!



特集
暮らしに活かす作業活動
—生きがいや豊かさを求めて

余暇活動場面における作業活動
—認知症高齢者に対する作業の考え方

当施設における認知症作業療法③

乏しい空間からは何の作業も生まれない!!!

- 長年生活を構成していた「曇」の作業に関係のある物品などを置いてみる
- 手続き記憶を誘発する状況を意図的に設定
- ただ単に「ある」、「聞こえる」ではなく、主体的に「使う」、「聞く」ことができるように

意図的に空間に「仕掛け」をしていくことが重要。「リスク管理」のためと称して最低の空間を作ろうとする風潮を作らないことが重要!!

当施設における他職種との協業

- 主観的世界に合った対応方法の情報伝達
- ADL場面における残存機能を引き出すための情報提供やデモンストレーション
- IADLに関する残存機能を発揮する場が不足しているので、OTで機会を設ける
- コミュニケーション能力が低下した方への非言語面でのコミュニケーション技法(つまり意図的な仮性対話)の伝達
- 空間の“仕掛け”をどう作るかを伝達

自己資源バスケット

これらを落とさないために、できる限り活用することが重要

バスケットの中から落としてしまった自己資源: 失ってしまった能力



E.メーリン/R.B.オールセン著、東理会監訳、モモロ・タチエダ・ヤーンセン訳、千葉忠夫翻訳協力:
デンマーク発 痴呆介護ハンドブック ミネルヴァ書房、2003、p.224を一部抜粋し加筆した

当施設における認知症作業療法④

まとめにかえて、2011年発行予定「作業療法白書」に掲載予定の原稿を紹介します。

おわりに

他職種と何も変わらないことをしているだけでは、専門職として存在する意味はあるのでしょうか？

しかし、機能にばかり注目して、日常生活に般化できないようなことばかりやっても、あまり意味がないのではないか。

自分はりハの専門職として何が出来るのか、それがどう生活に役立つのかをしっかりと考えることが大切ではないか。